

の注に、鷗といはれしが、千古不易の確論なるべし。○申さて都鳥のミヤは聲によりておほせ、コドリはよぶこどり、みさごどりなどの小鳥に同じく、大鳥に對へし稱なり。

〔重修本草綱目啓蒙三十二〕鷗

都鳥バカモメノ屬ナリ、ソノ名始テ萬葉集ニ出ヅ、又伊勢物語ニモ見ヘタリ、コレニ數說紛紛タリト雖ドモ、阿州ニテ都鳥ト云ヒ、紀州ニテ紅カモメト呼モノヲ眞物トスベシ、春月ハ香魚子ヲ追テ、潮ノ往來スル川上ニ登リ、水邊沙上ニ群ヲナス、形鷗ニ似テ背ハ灰色ヲ帶ビ、腹ト翼下ハ白色ナリ、故ニ飛ブ時ハ白ク見ユ、捕ヘ見レバ紅色ノウツリアリテ、至テ美麗觀ルニ堪ヘタリ、伊勢物語ノ文ニ能合ヘリ、又清ノ周櫻園ガ閨小紀ニ、蒲田九鯉湖中歐作粉紅色嬌艶異常ト云ヘルモ此屬ナルベシ、ミヤコドリハ鷗ト雜リ居ル者ナレバ、鷗トヒロク見ル說モ穩ナレドモ、鷗ハ古ヨリカモメト云和名アリテ、都鳥トハイハズ、形狀ベニカモメニ似タレバ、即都鳥ナルコト疑ナシ、和歌者流秘事口傳ナドコトゴトシク云故ニ、今詳ニ辨ズト、桃洞遺筆ニ見ヘタリ。

〔萬葉集二十一〕布奈藝保布、保利江乃可波乃、美奈伎波爾、伎爲都々奈久波、美夜故杼里香蒙。

右三首江邊作之○宿福家持作者大伴

〔空穂物語吹上之下〕なぎさより、都鳥つらねてたつをりには、まちどりの、こゑぐなくをきゝて、あるじの君、

みやこ鳥ともをつらねてかへりなばちどりははまになくくやへん、ゑうわか君をばまさになどて、

くもぢをばつらねてゆかんさまぐにあそぶ千鳥のともにあらずや、少將、
都鳥千鳥をはねにするてこそはまのつと、て君にとらせめ、ゆきまさ、

きみとはいかにこたへん濱にすむちどりさそひにこしみやこ鳥、などて一夜あそびあか